

平成28年度 第2回生駒市子ども読書活動連絡調整会議 会議録（要約）

日 時： 平成29年2月28日（火）午前10時から

場 所： 図書会館 大会議室

【参加者】 岩崎れい、森岡伸枝、平井富久子、森田桂子、藤原康成、山中賢司、樋田良恵

（欠席） 莞牟田一美、新土和美、辻中伸弘、吉川祐一

【事務局】 向田真理子、錦好見、平澤佐千代、清水淳子、廣松典子（以上図書館）

（1）平成28年度事業計画報告について

○生駒幼稚園年長組の生駒小学校学校図書館訪問の視察で、みなさまが感じたことをお聞かせいただきたい。

- ・子ども達にとって学校は新鮮で、その小学校に通うかどうかは別にしても、学校がどういうところなのかがわかって安心できる。小学校側も工夫されていて、子ども達にとっても親しみやすく整備されていた。幼稚園・保育園児が、見学によって入学前に小学校に触れられるのは良いことだと思う。また、学校司書も週2日勤務の中で一所懸命やっておられ、今は1、2年生への読書支援が中心だが、物語を読み始める3年生もフォローしたいという思いが伝わってきた。配置日数が増えることを願う。
- ・学校司書が週2日配置されている所は県内でもあまりない。
- ・3年生から上の学年に繋いでいくのも課題だ。図書館を使うことは、教科学習にも生きてくる。司書・ボランティアの方々など、いろいろな人の活動、支援のおかげで図書館がある。小学校に入学すれば、こういう場（学校図書館）があると知る機会を、校区内の保育園にも広げていければよいと思う。
- ・就学前の小学校との交流について、市内の市立・私立幼稚園、保育園にアンケートを行った。その結果から見ても就学前の小学校見学に期待しているが、受け入れの小学校側、また出かける園側でも、見学対応、引率の教職員の態勢などの課題があり、年間行事に組み込むことが難しい現状である。
- ・声を伝えていくことが大事。県内でもこんなに学校司書がいるところは他にはないので良いことだと思う。
- ・前は他自治体の中学校に勤務していて、町のいろいろな会議に出席してきたが、読書に関わる会議には出たことがなかった。中学校には立派な図書館があり子ども達が利用している。小学校で育てていただいた学力や生活力を伸ばすのが中学校の役割。前校でやっていた10分間の朝読書の様子を見て、本を読む意味があると感じた。
- ・文部科学省が実施している研究会の幼小連携の研究部門にいったが、生駒市がやっていることは全国的に見ても先進的で凄いことだと思う。幼小連携の組織委員会がない中、幼稚園と小学校が独自に連絡を取り合いながら自主的にやっていることは素晴らしいことだと思う。
- ・生駒小学校でのおはなし会を見て、子ども達がよく聞いていて良い雰囲気だと思った。各学校でもやってくれたら良いと思う。子ども達が使いやすい図書室だということにも感心した。

- ・子どもが学校にいる時間は司書が学校にいるという自治体もあるが、生駒市も徐々に増やしていただけたらと思う。
- ・就学前の小学校との交流アンケートの結果によると、運動会や文化祭前などに小学校行事に参加することは多いが、学校の図書室を使っているのは、生駒小学校の他は、数校である。就学前説明会で親が説明を聞いている間、子ども達が校内探検をしたり、図書室を使ったりしている学校もあるようだ。

(2) 平成29年度事業計画(案)について

○平成28年度春に開園した南こども園、平成29年度に開校する北小・中一環校などが候補にあがった。

南こども園では、共有スペースに絵本を並べ子どもが身近に絵本に親しむ環境を整備、北小中学校は建築的にもいろいろな工夫がされている。

○その他

- ・各校に配置されている学校司書も、できれば毎回全員この会議に出席できればよい。
- ・中学校ビブリオバトルの今年度のチャンピオンの生徒が、東京の全国大会に参加することになった。

(3) その他

○岩崎れい氏より、IFLA（国際図書館連盟）学校図書館ガイドライン改訂の概要説明、及び世界の公共図書館、学校図書館の紹介